

講演 I

「超高齢社会における作業療法の考え方

ー虚弱・認知症高齢者に対する支援のあり方ー



講師

茨城県立医療大学 教授

村木 敏明 先生

今年、戦後第一次ベビーブーマー（昭和22年から24年）が65歳を迎える。すでに65歳以上はカナダの総人口に近づき、後期高齢者数が北欧の福祉国家であるデンマーク・スウェーデンの総人口を超えている。更に100歳を超える高齢者（センテナリアン：centenarian）が5万人を優に超え、そして独居高齢者が400万人近く、また認知症高齢者が460万人を超える現状に直面している。それらを前にして、リハビリテーションの一翼を担う作業療法がこれから自らの「立ち位置」をどこに置き、そしてどこに向かっていくことが国民のQOL・ウェルビーイング（Wellbeing）に寄与できるのか、私たち作業療法士がそれらの現実・課題に真摯に向き合い、解決策を導き出すことが喫緊の課題となっている。「生きる・働く・楽しむ」を一生涯関わり続ける作業療法によって、将来3人に1人が65歳という超高齢社会を迎える中で、予防を兼ねた虚弱ならびに認知症高齢者に対して効果的かつ効率的に介入することができる支援の在り方を提示し、明日からの臨床における作業療法介入の一助となる考え方を展開したい。

【略 歴】

1973 年 大阪外国語大学デンマーク語学科卒業

1977 年 デンマーク国立オーデンセ大学北欧語学科修士課程修了

1985 年 神戸大学医療技術短期大学部作業療法学科卒業

1985～1994 年 神戸大学医療技術短期大学部作業療法学科助手

1994～2001 年 神戸大学医学部保健学科作業療法学専攻助教授

1996 年 神戸大学にて博士(医学)を取得

2001 年 茨城県立医療大学作業療法学科・大学院修士・博士課程教授(現在に至る)